

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292600020		
法人名	有限会社 とんぷう (委託運営会社 株式会社 介護問題研究所)		
事業所名	さくらの里ひがしどおり		
所在地	〒039-4223 青森県下北郡東通村大字小田野沢字中川目55-342		
自己評価作成日	平成29年10月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・食事について、村内で取れた野菜(職員による無農薬自家栽培含む)を使用し各利用者さんが、自宅で普段食べているもの(郷土食)を提供している。 ・降雪期間以外(4月から10月)月1回外出行事を企画実施している。 ・身体拘束をしないケアの実践に努めています。 ・毎月テーマを決めて勉強会を実施し介護現場へ還元し、職員のスキルアップに努めている。 ・玄関前に花のプランター及びミニトマトを並べ利用者さんと一緒に手入れし、手入れできない人も鑑賞しミニトマトは食卓に上り皆で食べる事ができた。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成29年11月24日		

<p>地域と共に歩むグループホームとして2月から再スタートされ、村内のイベントへの参加や地域住民から野菜の提供など地域に根ざしたグループホームとなっている。また、ケアサービスの実践に於いて、身体拘束防止に力を入れ、そこで暮らす利用者を尊重し、職員一人ひとりが目配り、気配り、心配りがなされている。また、人材育成の研修に参加できるようにしながら、そこで働く方の良さを引き出し働きやすい職場作りに取り組みされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念運営方針を施設ホールに掲示し月1回の全体会議時唱話し実践につなげています。	地域密着型サービスを理解した上でグループホーム理念を作り、その理念をホール内に掲げ会議の場で意識づけしており、日々のサービスの中で実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の一斉清掃参加、地区の祭り参加等村内イベントへできるだけ参加するようにしている。	地域で行われるイベントに参加し、近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議等参加時、認知症専門の施設として、ケース検討時発言を求められることがあるが現場での処遇経験・知見を伝えている。地域包括支援センター主催の行事に職員(認知症サポーター)を参加させている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護の席上食事についての意見があり、職員手作りである事、地元の食材で地元の料理中心に提供していることを説明すると、良いことだとの感想いただき、結果を受けて次回は、昼食を試食して頂きながらの会議を予定している。	地域の方々の目を通してグループホームの運営内容を報告し、参加者からの質問、意見、要望をもらい、それらをサービス向上に具体的に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況はその都度報告させていただいており、村担当者、包括支援センターとの連携は密に取らせていただいている。	地域包括ケア会議への参加等、様々な機会を通じて連携を図り、問題解決や事業所の利用者の情報や空き状況の報告を行いながら連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠及び身体拘束に関する同意書を作成し緊急やむを得ない場合及び医師の指示以外は、身体拘束をしないこととしている。また、同意を得た場合においても、できるだけ本人を取り巻く環境、原因因子を早期に改善し解除することとしている。	研修で身体拘束の内容とその弊害を確認し、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。また、入居前の事業所で使用していた拘束的服装を排除するなど防止のために日々改善に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設虐待防止については、高齢者虐待防止法の内容(身体的、心理的、性的、経済的虐待及びネグレクト)について施設内に掲示するとともに、おむつ交換、着替え、清拭、入浴時、皮膚状態の観察(痣、傷、疼痛の有無)、処遇時の声掛け等、職員間で気付きがあれば、管理者および介護支援専門員に報告し早期に対応する事としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設職員に社会福祉士(むつ市後見人養成講座終了者)がいるので、所内研修実施し制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時概略説明し、さらに契約時丁寧な説明し納得していただいた上で捺印いただいている。今のところ利用者家族から不安や疑問点の問い合わせはないが、あれば説明を尽くしたいと思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時、管理者および職員による声掛けを励行している。特に家族がお帰りになるとき声掛けを励行している、利用者が家族にしか言わない方もいるので、意見の反映については配慮している。事例として嗜好品の持ち込み等の相談あり。	苦情や意見等を前向きに受け止め、積極的に聴く努力や場面作りを行っている。また、受付した苦情や要望等については運営推進会議等を通じて外部へ周知が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティング、月1回の定例会議の場を活用し意見提案を吸い上げ運営に反映させている。運営1年目であることから、職員の意見や提案は貴重であり頼もしいと感じている。	朝夕のミーティング及び会議を通して職員間の意見交換を行い、必要に応じてその意見を運営に活かす職員への働きかけや質の確保につなげ、よりよいサービスの提供に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の立地が中心市街地から離れており、就業環境が厳しいことから、給与水準を上げる努力と労働時間調整、やりがいの付与に配慮せざる負えない状況にある。具体的には、空き部屋を利用し職員休憩室を確保しテレビを設置するなど職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護基礎研修、ボディメカ研修等参加していただき、最新の理論等研修内容を持ち帰り所内にて伝達研修実施している。また、ケアの均質化、力量の向上を目指し、現場で意見交換しながら、介護にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会主催の研修に参加させていただき、他施設職員との交流の機会を作っている。また、下北・上北管内他グループホームへの研修依頼など行い他施設の取り組みについて参考にし質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前入手した情報と入所前面談にて、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、ケア会議などでその内容を職員に周知し、入所後も継続対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ずは在宅での介護の苦勞をねぎらい、多くの部分で家族の介護負担を代替えできること、認知症の対応について教育を受けた職員が対応にあたる事を説明し安心していただく。その上で家族と共同しなければできないこともある事を理解していただき、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば独居で通院できていないケースがあり認知症の進行により遠方の家族が入所申請に見られる事があるが、先ずは受診し確定診断実施し必要であれば、認知症専門棟をもつ精神科受診し入院の上周辺症状の安定化を図るといった手順の説明を行うなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	夏場は花のプランター、ミニトマトの手入れを一緒に楽しみ、ミニトマトの収穫後食卓で一緒に食べる。不眠、便秘などの訴えに適切な対応を行い、改善したら一緒に喜ぶ、誕生日を祝い、長寿を祝い、喜怒哀楽の共有はできていると職員一同感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に職員が本人を支える事は当然であるが、代替えのできない部分がある事を自覚し、家族との関係性を共に支えあう関係と捉え、毎月の利用料の請求に、その月のイベント参加状況等本人の様子が分かるよう一言添えて発送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者から馴染みの人に施設訪問してほしいとの依頼があれば、相手方との調整支援している。	地域との関わりを大切にするため利用者の日々の要望や家族からの話を聞きながら、馴染みの場所など、家族の協力を得ながら外出支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本年2月より開所し現在7人の入居者となっている。女性陣3人はそれぞれの居室を訪問しあったり、女性陣が主に利用している食堂ホールでソファで談笑する等自然に関係性が出来てきている。男性陣は適度な距離感で過ごしており、特に問題は生じていない。イベントなどで判断が必要な時は、職員が様子を見てフォローし心情的な軋轢が生じないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点では、契約終了者はありませんが、他施設の転出、死亡後の家族のフォローは必要に応じて実施したいと思っています。地域包括支援センターのボランチ機能を目指したいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者各位の思いや暮らしぶりの把握は概ねできているが、自宅での暮らしの再現は困難である。施設機能で再現可能な事柄はできるだけ実践し、思いや意向への理解と共感には常に継続して行くスタンスで、今はできなくとも将来にわたって検討したい。(例えば飲酒、喫煙等)	サービス担当者会議には利用者とその家族が参加されており、その中で要望や思いを把握し、計画に反映している。また、日々の関わりの中から利用者の思いを確認しており、意向に沿った計画を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院経由で入所されるケースがほとんどであるが、担当ワーカー、介護支援専門員より支援経過、アセスメント、ケアプラン、看護サマリーなど情報提供していただくとともに、本人、家族との事前面談においてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の一日の流れの中で夜間の睡眠状況、起床後の行動、日中の過ごし方、居室から食堂ホールへの移動等、排泄、水分補給量、食事量、アクティビティ参加状況など業務日誌の確認、介護業務支援などから暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	思いや意向の把握、これまでの暮らしの把握などから、介護計画原案を作成し本人、家族、関係者と話し合い、施設機能とのすり合わせを行ったうえで介護計画を作成している。介護計画の実践については、介護経過を確認し定期的なモニタリングを行いより良い計画となるよう配慮している。	利用者の望むことを事前に確認し、話し合いを行い、利用者がよりよく暮らせるための介護計画を作成している。家族からの希望については随時確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別ケース記録を作成し、朝夕のミーティングで職員間で情報を共有し、介護職員・看護師と介護支援専門員が一体となって日々の実践の経過を見極め介護計画の見直しにフィードバックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前独居のケースが6ケースほどあり、家族の支援が特に希薄なケースについては、生活用品の補充、衣類の購入等施設職員が対応している。今後も、本人、家族、親族で対応困難ニーズがあれば柔軟に対応する所存である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設の立地する地域では、郷土芸能が盛んな地域であることから、職員及び入所家族の中で芸達者な方がいたり、職員の知人に施設慰問ボランティア活動をしている方がいるので、これらの地域資源を把握し、外出行事のできない季節に慰問していただき豊かな暮らしができるよう支援させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、協力病院である村診療所受診しています。また、診療所では訪問診療(お元気ですかー)行っており、受診困難者について対応してもらっています。受診については100%本人家族の希望通りとなっています。かかりつけ薬局との連携も密にしており薬の作用機序、副作用についても確認、また、ジェネリック使用についても相談し利用者の経済負担とならないよう配慮しています。	かかりつけ医や希望される医療機関への受診の支援や一人ひとりの健康管理や医療支援に繋げるために、協力医療機関と連絡を密に取り合いながら安心と納得が得られるよう支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時及び訪問診療時は、事前に職場内看護師と相談しアドバイス受け、ケース記録持参し直近のバイタル等詳細に伝えるとともに、状態を上手く表現できない利用者に代わり代弁機能がしっかりできるよう配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関	開所以来入院された方がいない状況ではあるが、受診時、訪問診療時相談に加え、地域ケア会議に看護師長が出席しており機会をとらえ関係づくりを実践している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所当初の説明時、終末期の在り方(気管送管等高度医療の可否等)確認すると共に、重度化し施設対応困難となった場合、村内地域密着型特養、老健施設利用、機械浴のある住宅型有料老人ホーム等紹介連携できる体制をとっている。ADL低下利用者の対応として、浴槽のマガギが出来ないレベルになった方に対して個浴が利用できるよう介護福祉士会主催研修へ2名参加させボディメカ技術の習得に努めており伝達研修実施している。	重度化した場合の対応の在り方について、利用者や家族等、関係者と話し合っている。また、安心と納得を得られるように状況の変化のたびに連絡を密に行い、話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥、異物飲み込み、呼吸停止等施設で発生しやすい事態に対し応急手当や初期対応の訓練を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対応マニュアル及び原子力災害対応マニュアル作成しそれぞれの関係機関と連携し必要な訓練を実施している。火災訓練については、本年2月20日、9月9日実施、原子力防災訓練は村の指導により10月25日実施している。また、地域の災害弱者について一時避難所として指定されている。	防災対応マニュアル等を作成して年二回の日中及び夜間の訓練を行っている、また、地域独特の訓練として原子力訓練を実施し、行政と共に連携を図り取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・朝夕の挨拶、各居室に入る際は、ノック許可を得てから入る事を励行している。 ・排泄介助の際は、声掛けしてから誘導し馴染みの関係が出来ているからと油断せず対応している。特に母子関係に見る無条件の絶対の信頼関係による排泄介助とは違うスタンスで臨み、排泄を他者に委ねる羞恥心、悔しさの理解なくしては人格の尊重は成し得ないとの考えである。	職員全体が利用者の尊重を大切にする事から、言葉かけに注意を図り、グループホーム全体が利用者を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができない、あるいは、言葉が発しづらい利用者には、日常的な会話、何気ない仕草等観察し、選択しやすい言葉を使用するなど常に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、体操、レク等日課に沿って生活していただいているが、その日の心身の状態に応じ強制することなく柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着では、定期的に変換し、通院外出時及び行事外出時は、その目的と季節を考慮し利用者と一緒に選びおしゃれを楽しんでもらっている。外出用の帽子をたくさん持っている方がおり選ぶのに本人職員共に迷いに迷い大騒ぎしている光景を見るにつけ、身だしなみおしゃれが生活の大事な要素であると痛感している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人及び家族にお願いし、嗜好聞き取りを行い好きなもの食べれないもの等の把握に努めている。 食材の事前準備(えんどうやナスのへた取り、ミズやふきの皮剥き等)、片付け等利用者の能力に応じ職員と一緒にやっている。	地域で採れた野菜を利用した郷土料理の提供を行い、利用者の個々の力を活かしながら、同じテーブルを囲み喜びのある雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録をとっており、利用者の状態確認に資するものとしている。記録をもとに水分の摂取を促したり、食欲のない時は、好きなもの(梅干しなど)を一品足すなど対応しているが、その目安として活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全利用者に声掛けし歯磨き、入れ歯洗浄うがい励行していただいている。特に口腔ケアをしっかりと行い肺炎予防実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄、水分チェック表を活用し、歩行機能等勘案し排泄の自立に向けた支援を実施している。移動に手間取る方には自室に設置したポータブルトイレ利用していただく等対応させていただいている。	排泄パターンを把握してトイレでの排泄を大切に行いながら、極力オムツを使用しないケアに取り組まれている。また、トイレの表示を見やすくし、利用される方への配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事の内容摂取状況により便秘になりやすい人がある事を理解し、調理時、食物繊維の摂取ができるよう食材に配慮している。野菜を取り入れているが、季節によっては冷凍野菜を取り入れて対応している。毎日午前・午後定時に体操実施している。便秘症の方には食事・体操・水分補給・便秘薬を適宜組み合わせ対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日時間帯は、月・木午前中と決めているが、時間帯は、その時の希望により対応している。また、月・木以外での利用にも希望があれば柔軟に対応している。	入浴日は定めてあるものの希望があれば随時対応をしている。また、利用者一人ひとりの習慣や好みに合わせ、安心して入浴されるように取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室の温度、照明等本人の希望を、生活習慣に応じ柔軟に対応している。特に冷え性の方には湯たんぽ、電気毛布なども用意し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに薬の説明書をファイルしており、その都度確認できるようにしている。特に新しい薬が処方された場合はかかりつけ薬剤師と連携し副作用の兆候など指導してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性陣には食材の調整(いんげんのへた取り、ミズの皮むき等)、食後のお盆の拭きとり、洗濯たたみ等能力に応じて役割を分担していただき、生活の基本部分に参加しているという実感を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	主に自宅に帰りたいとの希望があり、その都度希望を把握し、天候、業務の都合等勘案し、できるだけ対応させてもらっている。	日常的な外出支援に限らず、利用者の思いに添えるよう取り組んでおり、利用者の意欲や自立を保つように支援が行われている。また、家族との外出支援についても行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者各人の小口の現金を預かっており、各人の希望に応じて自由に使えるよう支援している。具体的には、牛乳、ジュース等の購入が多い。外出行事などでは、例えばソフトクリーム等の購入の際は、自分で払えるように事前に持たせるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用支援を行い、直接家族と会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールには自宅で使用していたサイドボードを置いており、小上がりが、畳の間となっており、趣味活動の場となっている。	共用空間の中には畳の小上がりがあり、和の潤いを与えている。また季節に合わせてクリスマスツリーが飾られており居心地のよい空間づくりと冬の到来を感じさせる季節を味わえるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを2つ設置しており、それぞれの居場所として利用されている。白いソファでは女性陣が仲良く座りおしゃべりしたりする様子が見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内ベッド・マット以外は、本人家族のもちこみとなっている。馴染みの環境造りとしては家族の写真等飾っている方もいる。	本人のやすらぎを得られるように思い出の品々や馴染みの品々を持ち込まれて、安らぎと居心地の良い空間づくりに取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すり設置、居室ネームは山菜系としている。また、トイレ取っ手にトイレと分かるように表示を追加している。		